令和６年度　第１回熊谷市入札適正化委員会　議事録

１　開催日時　　令和６年１０月２９日（火）午前１０時開会

２　開催場所　　熊谷市役所６０３会議室

３　出席者

委員

田尻委員長、木村委員長職務代理、石井委員、貝沼委員、富井委員

事務局

総務部	長谷川部長
契約課	齋藤課長、岡副課長、杉山主幹、鈴木主査、関塚主査、植原主査
上下水道部	武田部長
経営課	竹村課長、栗原主査

抽出案件主管課

公園緑地課	石原課長、杉浦主幹、鈴木主任
維持課	北岡課長、金子副課長、川田主査
河川課	萩原課長、水野副課長、寺嶋技術員
営繕課	大場課長、青木副課長、奥﨑主任、神岡技師
水道課	田中課長、小林主査

４　議事

ア　委員長の互選及び委員長職代理の指名

イ　熊谷市入札適正化委員会及び熊谷市の入札制度の概要

ウ　入札手続の運用状況に関する報告

エ　抽出事案に関する審議

＜市長部局＞

建設工事

・　一般競争入札	３件／対象事案	５１件
・　指名競争入札	１件／対象事案	３３件
・　随意契約	０件／対象事案	４件

業務委託

・　指名競争入札	１件／対象事案	１７件
・　随意契約	０件／対象事案	０件

＜上下水道部＞

建設工事

・　一般競争入札	１件／対象事案	１７件
・　指名競争入札	０件／対象事案	６件
・　随意契約	０件／対象事案	０件

業務委託

・　指名競争入札　　１件／対象事案　　４件
・　随意契約　　０件／対象事案　　０件

オ　次回抽出委員の指名

カ　その他

議事の概要

ア　委員長の互選及び委員長職代理の指名

現委員体制となって初めての委員会であるため、委員長及び委員長職代理を決定した。

イ　熊谷市入札適正化委員会及び熊谷市の入札制度の概要

資料に基づき、事務局から熊谷市入札適正化委員会及び熊谷市の入札制度の概要について説明を行った。

ウ　入札手続の運用状況に関する報告

資料に基づき、事務局から令和６年１月１日から令和６年６月３０日までの建設工事及び工事に係る業務委託の状況概要について説明を行った。

エ　抽出事案に関する審議

下記事案について、事務局から説明を行った。

委員からは下記のとおり質疑があり、適宜事務局から回答し、了とされた。

＜市長部局＞

事案１・・・熊谷運動公園水辺環境整備工事【一般競争入札】

【質疑応答】

なし。

事案２・・・市道１１８号線舗装打替工事【一般競争入札】

【質疑応答】

委員：　４者が同金額での入札となっているが、このようなケースは多いのか。

事務局：　工事の積算単価が公開されおり、また工事の積算ソフトも市販されていることから、舗装工事のような比較的積算しやすい案件については、このような同額のケースが多い。

事案３・・・（仮称）熊谷市立第２妻沼南児童クラブ建設工事【一般競争入札（総合評価方式）】

【質疑応答】

委員：　総合評価方式において、障害者雇用が企業の社会的貢献度として評価項目に加えられている。建設業界においては、障害者雇用は難しいと思われるので、このように評価項目に加えることにより、建設業の障害者

雇用が進むよう、周知を図っていただきたい。

事務局：　総合評価方式において、障害者雇用が評価項目とされている点については、今後も機会を捉えて広報していきたい。
　なお、これまで総合評価方式は、土木や舗装に限られていると、委員の方から指摘を受けていたことから、今年度は建築工事で初めて採用した。

委員：　建築工事で初めて総合評価方式を採用したようだが、今回はそのメリットがなかったように思われる。入札者が少なかった原因として考えられることはなにか。

事務局：　総合評価方式は、自己採点等が必要で、一部手続が煩雑になり敬遠されることがある。ただ、価格と共に企業の社会貢献度等も含め落札者を決める制度なので、メリットの部分について、もっと広報して入札者が増えるよう努めていきたい。

事務局：　総合評価方式の入札を避けているというわけではなく、近年建築工事の入札では、技術者不足等の様々な要因が考えられるが、全般的に不調となる確率が高くなっている。

委員：　予定価格、設計価格は公表されているのか。

事務局：　一般競争入札では、予定価格、設計価格共に公表していない。指名競争入札では、設計価格のみ公表している。

委員：　１番の事業者は、積算の結果、資材の高騰等の影響もあると思うが、この金額でないと請け負うことができないと判断した結果、予定価格を上回ってしまったということか。

事務局：　建築工事においては、工事代金の積算が見積の部分が多く、複雑で難しくなっている。

事案４・・・新星川河道浚渫工事【指名競争入札】

※事務局より補足説明

　この案件は、２回目の入札になる。１回目は「とび・土工工事業」のＣ級の事業者を対象として入札を行ったが、応札者がなく不調となったため、２回目は同工事業のＢ級に登録されている者を対象として実施した。

【質疑応答】

委員：　１回目が不調で、２回目も辞退者が多いが、工期が短いのが原因ではないか。

事務局：　この工事の内容は、河川の流れを阻害する堆積した泥を除去するもので、川の中に入り作業を行うため渇水期に行う必要がある。
１月に１回目の発注を行ったが、不調になったため、２月の発注となった。泥を除去し運び出す工事であり、長い工期を設ける必要はない。

委員：　渇水期に行う必要があることは理解したが、発注の時期を１月ではなく、もっと早めることはできないのか。

事務局：　堆積した泥を除去する工事であり、堆積した泥の量を正確に測る必要がある。そのため水量が下がらないと、現場での計測が難しいため、どうしてもこの時期の発注となってしまう。

委員：　今回は２回目の入札で、２者が応札したが、不調となるケースもある

のでは。

事務局：　年度内に入札が成立しない場合には、予算を繰り越して翌年度に実施することもある。

事務局：　今回の工事については、予算を繰り越しても、工期は５月末までになる。

委員：　辞退が多い原因として、何が考えられるのか。

事務局：　同時期に工事が重なることにより、技術者の配置が難しいため、辞退者が増えてしまうと考えられる。

委員：　それは、この工事に特化したものか。

事務局：　この工事に特化したものではなく、年度末等工事が重なると人手不足等の影響で、辞退が増える。

事務局：　一つの事業者が、「とび・土工工事業」だけでなく、幾つかの建設業許可を受けていることから、年度末には複数の工事を受注しているため、辞退者が多くなってしまう。

委員：　今回の浚渫工事は、このエリアに限った工事となるのか。

事務局：　一つの河川に５年間の年次計画を立て、部分的に進めており、今回は、このエリアが対象となった。

事案５・・・（仮称）地域会館建設工事設計業務委託【指名競争入札】

【質疑応答】

委員：　辞退者が多い理由は。

事務局：　市内本店業者だけでなく、県内本店業者まで対象業者を広げたが、難しい委託内容であったため、辞退者が多くなったと考えられる。

事務局：　建築設計の委託業務の場合、委託内容にもよるが応札者が少ない傾向にある。業界内の人材不足が影響していると考えられる。

＜上下水道部＞

事案６・・・石原一丁目地内配水管改良工事【一般競争入札】

【質疑応答】

委員：　落札した２番の事業者の区分は、何級か。

事務局：　Ｂ級になる。

委員：　単純な判定はできないと思うが、Ｂ級はＡ級より下になるのか。

事務局：　級区分は、経営規模等で判断されるが、Ｂ級はＡ級より下になる。

事案７・・・配水管布設工事実施設計業務委託（その１）

【質疑応答】

委員：　熊谷市内には、今回のような業務委託を受注できる事業者が少ないのか。

事務局：　市内で登録されている事業者の中で、今回のような業務委託を受注できる方は、限られてしまうものと判断している。

委員：　規模の縮小や技術者の不足等が影響しているのか。

事務局：　設計技術等の有無や経営ノウハウ上の不足などの要素などを勘案し、

入札参加資格の申請を行える業種を業者側も判断していると考えている。

委員：　埼玉県内も同じような状況だと思うが、市内業者を指名することは難しいのか。

事務局：　市内業者育成の観点から、積極的に指名を行っていきたいが、入札参加資格者としての業種の登録の有無により競争入札に指名できるか否かを判断せざるを得ない。

【議事全般にわたる意見等】

委員：　過去３年間の資料を確認すると、随意契約の割合が下がっている。一昨年度は２．５％、昨年度が２．３３％、今回が１．１８％となっているが、これは意図して行っているのか、それとも結果的なものか。

事務局：　市としては、競争入札を基本としているが、特殊な工事等で事業者が限定される場合等には随意契約となる。一昨年度より随意契約の割合が下がっているのは、結果的なものと考えられる。

委員：　随意契約が減るのは良い結果だと思う。これは職員の努力の結果と考えて良いのでは。

事務局：　契約の透明性を確保する意味からも、競争入札を最優先に考え日々取り組んでいる。

オ　次回抽出委員の指名

次回の委員会において、抽出事案を選定する委員を指名した。

カ　その他

次回の委員会の開催予定について説明した。

以上で、閉会となった。